

“恐るべき危険”……この恐るべきを直譯して dreadful 又は fearful とした答案が多かつたが、本文では寧ろ“憂慮すべき；心痛に堪へざる”等の意味に譯した方がよいと思はれる。すなはち very anxious; very Trouble apprehensive 等を用ひて譯する。

“瀕する”……“危険に迫る”意味に譯せば to be on the brink of を用ひるが、“危険に臨む”意味なら to stand in the presence of を用ひる。

第二段目の全體を譯して見るならば、次の如くなる。what it will be considered by thoughtful men when they think the fact that the home-life of high circles which once was regarded as an ideal representative of social life and morality have been fallen into such an extreme condition of corrupt and ruin as these cases.

Alas! the social condition of our country is on the brink of very anxious danger.

以上はたゞ原文に忠實に直譯したのであるが、その他にも種々に譯され得る。たゞ一言し度いのは、どうも全體として甚だしい文法上の缺陷が多かつた事である。どうせ和文英譯は不得手なのが常であるから、何

も達文を書く必要はないが、意味がはつきりして文法に誤のない事丈けは期待し度いと思ふ。それで最後に文法上に著しい誤のあつた答案二三を掲出して批評し度いと思ふのであるが、誌面の都合もあるので今回は止める事とする。たゞ最も優秀であつた答案の一二を掲ぐるならば、

If we read attentively the social descriptions of every newspapers in the city, we will not miss the fact that almost as every day they are reporting not only the fact of sin and disorder among good society of late, but, especially worse of them, also the facts of crime.

What it will be considered by the thoughtful people when they look such a extreme corruption and demoralization of the homes of good society like now a d ys, not withstanding that there was a time when they had been regarded as if the very paragon of social life and model of virtue.

We can not help saying that the condition of society in our country is very dangerous.

(評) 文章も非常に流暢であり、殊に其の言ひ廻しに良い所があるが、尙ほ可成な誤が発見される。in the city は in the capital でなくてはならぬ。descriptions は“記述”の意味であつて重に小説などに用ひられる。新聞の記事には矢張り article, news 等が適當だらう。they are reporting は“報道しつゝある”の譯であらうと思ふが必ずしも are……ing の progressive form を用ひない。present tense で澤山である。especially worse of them は意味がはつきりしない。worse は名詞に用ひられる時は“もつと悪い事”の意味になるし、副詞に用ひられるなら“もつと悪く”となり、形容詞となれば“更に悪い”となる。worse of them は“彼等の中のもつと悪い事には”の意味であらうが、それは誤である。the worse of them ならば“彼等の中の更に悲しきもの”と云ふ意味になるが、たゞ worse では用ひられない。not only……but で also の意味は含まれるのであるから not only……but also は重複する。氣持としては also を用ひたい様な氣がするが、それは but は“然しながら”の意味に考へるからであらう。

れてゐるなと思はれる場合には、必ず辭引について叮嚀に譯語を明にすると云ふ風な勉強が足りないからである。之と同じ様な注意は humanity に就ても爲されねばならなかつた。humanity と云へば“人道、人道主義”などとのみしか考へないのが普通なので a federation of humanity を“人道の聯合”などと譯してゐらるゝ人もあつた。この場合に鑑みて以後大に御注意あらんことを希望してやまない。

most of……これは餘り過誤はなかつた。然し中には“最も多くの子供”“全部の子供”など、譯してゐる答案もあつた。most of は idiom であつて、“大概の子供に”と譯するのが正しい。“苟くも世に生れ來し大概の子供には”と巧に譯してゐる答案も少からずあつた。

would…… would が何に續くかが餘程變ならしい答案が多かつた。この would は言ふ迄もなく the attainment に續く筈である。過つてゐる多くの答案は that と would を結びつけてゐるものであつた。これなどは落付いて再三讀み直した上に、少し正確な文法上の眼さへあれば到底間違へ様のない所である。若しも would を that に結び付けるならば the attainment

の動詞がなくなつて終ふ。どうか呉々も言ふ通り文法上の正確さを失はない様に注意していたゞき度い。また中には would を“しやうと思ふ”と願望の意味の would に譯してゐる答案もあつたが、これも要するに譯語の吟味の不正確を證明するものである。would などは、かつて本誌にも書いたと記憶するが、用ひらるる場合によつて種々の意味になるのだから平生よく氣を付けて置かねばならぬ。

such……as…… これも可成間違つてゐた。それは as to と云ふ idiom を知つてゐる人が、such を孤立せしめて as を to に結び“開くとに關し”と譯してゐるのであつた。これは此場合丈けでなく實に屢々間違へられる所である。such が前にあり後に as があれば as は先づ such と結びつくべきである。such と云ふ言葉がたゞ孤立して用ひられると言ふが如き事は、先づ絶無と見てよいのであるから、此處なども文法上の知識が正確なれば間違ひ得ない點であらう。

“秀逸答案”

“苟も此の世に生れ出た大抵の子供達に健康、教育及び大體に於て機會の均等を保證するため、社會的に公

正なる適當の方法と相俟つて全人類が聯合を爲すに至らばそれは人文歴史に一新生面を開くが如き人間精力の解放であり増進となると云ふことは殆ど疑ふ餘地がない”(京都市、足立鐵次郎君)

(批評) 譯文も流暢で大體於て間違ないが、足立君のみならず、笹島君、竹村孝一君その他良い答案を書かれた諸君と同じ誤に陥つてゐる。それは a sufficient measure of social justice である。この measure も多義語の一であつて種々の意味を持つ。最も普通なのは“程度”と云ふ譯であるが、measures と plural number になれば“方法;手段”とかの意味になる。諸君の間違へたのはこの measure を measures と plural の場合の意味に持つた事である。茲の measure は矢張り“程度”大さ“などの意味である。此處の點は愛知縣の堀田貫一君の答案のみが誤のなかつた唯一だと思ふ。即ち“凡そ此の世に生れ出でたる兒童の爲めに健康、教育及び大體の機會均等を確實にする爲め充分なる社會上の公平と並びに全人類の聯合とを達成せば、其は即ち人間の歴史に新生面を開かんが爲に人間の精力を解放し且つ増加するに至らんとは殆ど疑ある筈なし。”

(批評) この答案も却々よく出来てゐる。たゞ to ensure を“確實にする”と譯したのは不味い。此處は如何しても“保證する”と譯す外はない。また such...as を“…に”と譯したのは意味の上から云つて不可なしとしても正確とは云はれぬ。此處は前の足立君の方がよい。この外にも良い答案があつたか割愛する。

(2) A young man should not be content to let a knowledge of one or two subjects carry him through life, but he should make a point of knowing as much as possible of his own particular line of business, and of everything connected with it. He can never acquire too much of such knowledge.

— 概 評 —

かなり難解の idiom が多かつたに關はらず、出来は前の題よりも寧ろ良い位であつた。たゞ誤りに陥つてゐる答案の中には致命的なものが多く、切にさうした諸君の注意を御願せねばならぬものか少くなかつた。

to make point of の如きは、一度辭書に就いて記憶すれば直ぐ解つて終ひ、それが particular from なる丈けに却つてやさしいのであるが、can never too much

の如きは、屢々出て来て然もよく間違ひ易い。之は間違へば全く正反對の意味になるのであるから、致命的な過誤と云つて差支へない。くれぐれも注意すべきである。例により多くの答案の陥り易かつた箇所も指摘して註解を加へ、二三の優秀な答案を最後に掲げることとしよう。

a young man ……これが誤譯されてゐたのには驚いた。すなはち或答案には“幼き人達とあり”また他の答案には“少年達は”と云ふ風に譯されてゐるのが可成多かつた。これなどは其人の譯讀力の全體を批判せしむる手懸りになり非常に不利な立場に陥れるのであるから、決して輕々しい問題ではない。

content を contend と間違へてゐる答案は少くなかつた。これ等も初學の人々は實に陥り易い所であるが、これが誌上模擬試験なればこそよかつたので、本試験であつたら決して呑氣な沙汰ではない。間違へられた諸君は、たゞに content と contend のみでなく平生こゝうした間違を自分が繰り返して居はしないかを此際よく省みて下さる様希望する。

to carry him through life ……此處の點に比較的誤

の少なかつたのは嬉しかつた。けれど中には意味のはつきりしてない答案も多く“……一二の問題を知らうと深く考へ過ぎてはならぬ”とか“壽命の免れぬ様に”と書いたもの“一二の問題に關して一生を費す”と譯されてあるもの、その他種々の答案があつた。to carry oneself through……は“……經過せしむる”と云ふ意味の idiom である。

例。His faithful resignation to God carried him through his great aurogance and anxiety. “神に對する眞實な信頼によつて大きな惱と不安とに堪へた”

それで本文では“一つ二つの知識を以つて生涯を過す”と譯されるのが本當である。

but……これを間違へてゐる人は、かなり優秀な解答者の中にも多く見出された。此處の but は前の should but とつゞくのであるから、普通の not 同様に“然し”と譯したのでは足りない。not……but の形の文章については前にも述べた事があると記憶するが、此際の but は……何々ではなくて何々“と續く文章の conjunction である。あらたまつて、然し；さり乍ら”など、譯すと全體の意味が漠然と成つて來る。そのみなら

ず not……but などは實に普通な形の文章であるから、之を誤るとはかなり打撃であらうと思ふ。よい機會だと思ふから not 又は not と but とが結び合された文例を二三書いて見て、諸君のはつきりした了解を得たいと思ふ。

a. He is not a scholar, but merely a pedant. “彼は學者ではなくて、生物識なものしりたるに過ぎぬ。”

b. He is not only a pedant, but a humbug.

“彼は生物識である許りでなく山師でもある”

c. There is no student but knows him as a pedant.

“彼の術學者なるを知らない學生はない。”

d. There is no science which is so complex but that it becomes easy through study and practice.

直譯すれば“研究と實驗とによつてやさしく成らぬほどそんなに錯雜した科學はない”となる。即ち“どんな錯雜した科學でも研究と實驗とによればやさしいものとなる”と譯す。

e. not が never につゞくと“必ず”の意味に用ひられる。

to make a point of knowing……これはかなり六ヶ

しい idiom であつたが大體正譯されてゐた。けれど中には to make a point と to make a point of とを混同してゐる人も少くなかつた。to make a point は“議論を立てる”“立證する”などの意味であり、to make a point of は“是非……する”“必ず……する”と云ふ意味である。用例について説明すれば。

a. It is no use controverting each other, you must make a point.

“お互に抗論し合ふても駄目だ。君は論旨を立證せねばならぬ”

b. You must make a point of making a point about your asse tion.

“君は是非君の主張に就て論旨を立證するべきだ” as much as possible……此點に誤のあるのは少なかつた。

particular line……これにはかなり多くの人が誤譯を附けてゐた様に見受ける。“彼の仕事の特別の地位”

“特別の一階梯”とか“自己の事物”などと云ふ譯もあつた。けれど本文は“自己の携はつてゐる仕事の特殊の方面”の意味である。

He can never acquire too much of such knowledge

茲が一様に多くの答案の陥没所であつたらしい。これなどは平生氣をつけておれば間違ひ様のない所なのであるが、一度先入主となつて誤つた譯が頭に泌みると却々取れない、よく解つたものとして讀み過す風があるものだから遂に大きな誤に陥つて行くのである。これは字義通りに直譯すれば“斯る知識は餘りに多く獲得し得ないのである”となる。そして多くの答案が誤つてゐたと云ふのも要するに此通りに譯してゐたからである。“彼等は決して餘り多くの知識を得る事は出來ない”とか“彼は知らんとする事が餘り多過ぎて決して達し得ない”とか“それ以上に過大な欲望を起す事は出來ぬ”などと種々の譯があつたが、結局字義に拘泥して眞の意味を握み得ない事から生ずる誤譯である。too much は“……過ぎる”と譯される。

you work too much for examination.

“君は試験に勉強し過ぎる”

それで本文も“その様な知識を得過ぎる事は出來ぬ”と譯さるべきであつて、すなはち“その様な知識はいくら得ても尙ほ足りない。”“その様な知識は得れば得る丈けよいのである”などと譯さるべきである。

そこで優秀であつた答案を二つばかり掲げるならば第一は高知縣の吉村君のものである。

“青年は一科目二科目の知識を以つて世を渡る事に満足せず、自分の専門とする仕事及び夫れに關係ある凡ての事に就て出来る限り多くの知識を得る事を肝要とする。斯る知識は如何ほど得るとも得過ぎると云ふ事はない。”

(批評) 殆ど完全であると云つてよい。殊に他の成績不頁の諸君の答案の多くが subjects を“問題”と譯してゐるのに、此答案では“科目”としてあるのは正しい。此處では青年は例へば簿記學、商品學などと云ふ一科二科の知識を持つたまゝで世渡りせず、自分が商人となる以上、凡そ商業學と關連する科目、知識はすべてに亘つて之を獲る様にせねばならぬと云ふ意味である。だから subject を“問題”と譯したのでは意味がはつきりしない。どうしても“科目”とせねばならぬ。笹島克君の答案も非常によかつた。次には小林章治君の答案を掲げて見よう。

“青年は一二の仕事に對する知識を得ただけで生涯世渡りする事に満足してはならない。然し彼は必ず彼自

身の仕事の特別な方面や、それに關する總ての事に就て出来るだけ多く知る事が必要である。かくの如き知識はいくら知つても尙ほ知り足りないものである。”

(批評) 譯文も流暢で成績は良好の方であるが、註解の所で言つた様に此答案の致命傷は but を“然し”と譯した事である。之と同じ過の爲に他の部分はよく出来てゐながら全體として失敗したのは高知縣の竹村君の答案であつた。また subjects を“仕事”と譯したのも誤である。後のは實によく書けてゐると思ふ。最後に評者の答案を書いて見よう。

(一)凡そ世に生れ出づる大部分の子供に、健康、教育及び大約ながら機會の均等を保證せんが爲めに、充分なる社會正義と相俟つて全人類の聯合を達成せしむることは人類の精力を開放し且つ増進し歴史に新生面を開かしむるを意味するは殆ど疑ふの餘地なきところである。

(二)青年は一科二科の知識で生涯を送るに満足すべきでなく、自分自身に専門な方面及び之に關連する總ての事につき出来る限り多く知る事を是非努めねばならぬ。かかる知識は、もう澤山だと云ふ事はない。

和文英譯批判

問題

(1) 都下各新聞紙の社會面を注意するものは、近來上流家庭に於ける紊亂、罪惡、殊に甚だしきは犯罪事實を殆ど連日の如く掲載してゐるのを看過せないであらう。

嘗て社會生活の典型となり、道德の師表なりとせられた上流家庭が、斯くの如く腐敗墮落の極に陥つた事象を見て、心ある者は果して如何の感懷を抱くであらうか。我社會状態は恐るべき危險に瀕してゐる。”

—概評—

本文は少し程度が高過ぎたかの様に見受けられた。従つて諸君の成績も英文和譯に比べると遙に落ちてゐる。だから満足に出来なかつたと云つて少しも悲觀するには及ばない。中には殆ど完全に近い答案も一二枚

あつたが、文法その他の點に於て非常に誤つてゐるのもあつた。こうした誤はたゞに問題が六ヶ敷かつたと云ふ事によるのではないから、よく注意してほしい。また氣のつかれたのは本文が餘り長いものだから、所々抜かして譯してある答案の多かつた事である。殊に第二節目の上流家庭の説明の持つて行き場に困つたらしく、中には全然省いてゐるもの、或は全く別の節として書いてゐるもの等あつた。その外文章が長くなるとつひ文法に混亂を生じるらしく見受けられた答案も少くなかつた。それで先づ第一に直譯的に書き下して見てそれから改めて旨い具合につなぐようにせねばならない。初から直ぐ一文に構成しやうとすると無理が出来ゑる。以下こうした方針に従ひ註解を施して見よう。

“都下各新聞紙の社會面を注意する者は“

……する者は…… He who ; every one who ; などでよい
……都下…… in the capital ; in the metropolis などが用ひられる。in the city と譯してある答案も多かつたが、in the city は“市中の ; 市内の”等の意味で、たゞに帝都の意味でなく外の都會にも適用するのだから此場合の適譯ではない。

……各新聞紙の社會面……これは一寸六ヶ敷いらしく見へた。中には social face of the newspapers と面白い直譯もあつたが、之は餘り直譯すぎる。社會面は social page of the newspapers と譯せない事もないが、元來社會面と云ふのも社會記事をのせた page と云ふ事なのでたゞ social page としたのでは意味が朦朧としてゐる。the page in which the social events are reported とする外ないだらう。だから寧ろ三面記事と云ふ意味にとつて general news of papers とするか、social articles of newspapers とするのがよい。

注意する……これも種々に譯されてゐた。中には attend, to take care of ; to pay attention to 等を用ひて譯してある答案も多かつたが、茲では“注意して讀む”と云ふ意味に譯した方がよい。殊に to take care of は“心配する ; 世話する”等の意味の“注意”だから此場合決して用ひてはならぬ。これはよく見受ける mistake であるが要するに譯語の吟味の不充分の爲である。

それで直譯すれば Every one who read attentively the social news of papers published in the capital で

よい。

次には“近來上流家庭に於ける案亂、罪惡、殊に甚しきは犯罪事實”である。

近來……recently ; of late ; lately 何れでもよい。

上流家庭……the homes of high circles でよい。high の代りに upper ; fashionable を用ひてもよい。これに就ての mistake は餘り多くなかつたが higher household とか upper house-hold などと書いた答案が案外に多かつた。house-hold は“家計、家政”などの意味だから“家庭”の譯語には決して當らない。

案亂……disorder がよい。confusion は“混亂”の意味で此處では disorder の方が適譯である。

罪惡……之を crime と譯すのは少し不適當だ。

crime は法律上の罪惡であつて寧ろ後の犯罪事實に相當する。此處では道德上の罪であるから sin 又は vice を用ひる方がよい。日本語では何れをも皆“罪”と云ふので其間の區別が判然しない憾がある。例へば christianity の holy Bible などの中に見へる“罪”と云ふ字は皆 sin であつて crime ではない。所が多くの人が兩者を混同し宗教上の罪を法律上の犯罪と誤り考へて

兎角の理窟や不平を並べるのを見るのである。

殊に甚しきは…… especially worse と譯す。worse は副詞として用ひられてゐる。ここは多くの答案の誤の最も多かつた箇所であつた。その例を擧げるならば：——

……particular criminal facts …… これは或る特殊な犯罪事實の意味になる。… especially criminal facts… この書き方が一番多かつた。なるほど日本語としては“殊に犯罪事實が”と云ふ言ひ方は正しいのであるが、英語でたゞ especially criminal facts では少しも意味を爲さぬ。especially は“殊に……”の意味で其後に副詞なり形容詞なりが來るのである。丁度 very が特別な用法、即ち“the very star……星その者すら…”と云ふ様に用ひられてゐる場合を除くと、たゞ漠然と very+noun の用法がないと同じく especially も直に noun にくつつけたのでは少しも意味がはつきりしない。此處では“殊に甚だしく悪い事は”の意味なのであるから worse を附さねばならぬ。worse は“更に悪いことには”の意味の副詞である。

犯罪事實……the facts of crime と 叮嚀に直譯して

ゐる答案が多かつたが、たゞ crime offence 等でも意味は充分であらう。guilt は裁判上有罪と決した意味の言葉であるから、たゞ犯罪と云ふ場合には當らない。

以上を纏めるならば次の如くなる。

recently disorder, vices and especially worse crimes in the homes of high circles. となる。若し“紊亂、罪惡等のみならば、殊に甚しきは犯罪……”と書けば。not only disorder and vices, but, especially worse, crimes……と譯すべきである。

次は“殆ど連日の如く掲載してゐるのを看過せないであらう”である。

殆ど連日……almost every day と副詞句に譯するのが一番よい。中には day after day ; continuons days 等と云ふのも見へたが、適當な譯ではない。…如く…を as if it were every day と譯してある答案が非常に多かつた。之は非常な誤譯であつて as if は現在の事實の反對の場合を假定して言ふ用法である。

He teaches his friends English as if he were a teacher. と云へば“先生でないのに、まるで先生のように友達に英語を教へた”の意味である。

本文の“殆ど毎日の如く”は“毎日ではないのに、宛ら毎日かの如く報道する”と云ふ意味ではない。茲などは譯文を書くに當り特に諸君が注意されねばならぬ所であらうと思ふ。

掲載してゐる……publish; give out など、譯してある答案も見受けたが、餘り面白くない。記事は“現れる”と云ふ言葉 appear を用ひるのが普通である。

看過しないだらう……看過は overlook 又は pass over 等が用ひられる。overlook は“見逃す、見落す。等の意味で pass over は 諒恕する、見て見ぬふりをする”と云ふ風な意味の言葉であるから茲では overlook の方が適當であらう。to miss も用ひられてゐた。これは“見付け損ずる”意味で無論本文の譯語としては適當な言葉である。

之で上半部は済んだ。全部を書いて見るならば、

Everyone who reads attentively the general news of papers published in the capital may be unable to miss the fact almost every day the disorders, vices and, especially worse, the facts of crime in the several homes of high circles appear in the paper.

上の譯文では“看過せないだらう”を“看過し得ないだらう”の意味に譯したが、若しも文の初に I think that を加へるならば may be unable to の代りに can not を用ひて譯する。

また“若しも……注意するならば……だらう”の形に譯すならば subjunctive … if を用ひる。

If you read attentively the social articles of papers in the capital, you will not overlook almost everyday the appearing not only of disorder and vices, but especially worse, of crimes in the several homes of upper circles.

次に後半部の註解を加へて見よう。

“嘗て社會生活の典型となり、道德の師表なりとせられた上流家庭”

嘗て…… once でよい。

社會生活の典型……典型は model であるが、“理想的代表”の意味に譯して ideal representative とすれば尙ほ意味がはつきりして來る。次の“道德の師表”も矢張り ideal representative でよいから茲は典型と師表と二語に分けずに Ideal representative 一語に纏め

て譯した方がよいと思ふ。

すなはち“the homes of high circles which once have been regarded as an ideal representative of social life and morality. と譯される。

見做されるは to be regarded as の外に to be taken for でも to be considered ; reckoned 等を用ひてよい。多くの答案に“せられた”即ち“見做された”を譯さずに直ちに which had been とか were とかを書いてあつたのは誤である。原文の意味をよく味ふて適當に譯す様にせねばならぬ。

次には“斯くの如く腐敗、墮落の極に陥つた事象を見て”である。

見て……此處の見るはたゞの見るではない。むしろ“考へる”の意味に譯さねばならぬ。だから think, heed 等がよい。“見て”は giving heed to the fact とするか when……think the fact とするか何れでもよい。

“腐敗墮落の極”……腐敗は corruption; 墮落は ruin でよい。全部を譯すならば。

when……think the fact (the homes of high circles) have fallen into such an extreme corruption and ruin

第二段目には平凡で然も致命的な誤がある。それは a extreme である。言ふ迄もないが a と an を間違へるのは如何にも語學に馴れてゐないを示すのだからよくよく注意してほしい。good society を上流社會の譯語に當てるのは少し適當でない。矢張り high circles の方がよい。“なりとせられた”を to be regarded as if + noun の形にしたのは文法上の誤である。as if は“恰も……かの如くと”云ふ意味の熟語で事實の反對を假想して云ふ場合に用ひられるのである。

He speaks as if he know the thing.

だから此處では as if は誤用である。

今一篇は笹島克君の答案である。紙面の都合で批評は見合はせる。

One who reads the social columns of the papers in Tokyo with care will not fail to find the fact that cases of disorders, sins and even crimes in the home life of the high circles are given out nearly every day of late years.

Could the thoughtf I bear to look at it with indifference that home-life of high wicles once look d up to

as the model of our social life and the pattern of virtue should fall to such an extremity corruption? Our social condition is indeed on the verge of the dreadful danger.

最後に早稻田大學教授 H 氏が本問題の爲に特に筆を採られた譯文を掲載する。

Every one who reads attentively the social sections of daily news in Tokyo can not help noticing the fact that lately not only general cases of social disorders and vices, but, still worse, criminal cases in the homes of the high classes are reported almost every day.

What would the thoughtful persons feel when they consider the fact that the home-life of upper classes once regarded as representative of social ideal and virtue has fallen into such an extreme corruption and ruin as these. The social condition of our country is now on the brink of very serious danger.

第十四回練習問題解説

— 和文英譯 —

(1) 横濱絹商組合では英政府によつて生絲及び絹製品に新輸入税を課せられるのは、我國絹輸出業者にとつて致命的打撃であるとして、この案を撤廢させる様運動方を倫敦の本邦大使館及び倫敦商業會議所に宛て、電報もて依頼した。

(註) 本文は單語には餘り六ヶ敷いものも見へないが、construction にはかなり注意すべき所がある。そして其の注意すべき箇所の譯し方を、はつきりと知つてゐない人には譯しこなす事が出来ない。そこは何處であろうか。讀者諸君は一應考へて見て下さい。さて例によつて單語の用法や idiom の意味などをしらべてゆかう。

◎横濱絹商組合 the Yokohama Silk Dealers'

Association^oと言ふ。これに就て注意せねばならぬのは the と言ふ definite article である。Yokohama Silk Dealers' Association と云へば固有名詞だからと云ふのでよくこの the を落とし其爲に全體がよく出来てゐても其事丈けで試験官より英語の根柢力を疑はれるようになる。よく新聞記事など讀む際に注意すべきである元來 definite article の用法は本物の西洋人さへ屢々間違へる位なのだから、初學者の誤るのは少しも無理ではない。文法的の法則などによつて憶へようとするのは却つて勞多くして效少き憾がある。よく其場合々に就て注意して記憶する様にされ度い。

◎英政府……the British Government である。この時にも the が必要である。

◎生絲……Silk はたゞ“絹糸”であるから生絲には當らない。それで raw silk を用ひる。raw “未製の；生の；粗き”等の意味を有する adjective である。raw material と云へば“半製品”である。

◎絹絲製品……製品は goods でよい。goods を初學者が間違へて good と書く事があるが大間違である。good は goods の single number でも何でもない。

good は云ふ迄もなく“善き”と云ふ意味の adjective で goods は“商品”と云ふ事である。商品の事は article とも云ふ。何れでもよいが goods の方が意味が廣い。絹絲製品は silk goods である。序に云へば何故商品の事を goods と云ふかと云ふと、之は經濟學說上の意味がある。けだし財物は人間に善きもの、人間の生活にあつた方が無いよりも善い物であると云ふ意味から goods が財物、商品等の意味を有するに至つたのである。之と同じく wealth……富……は well-being の意味で“人間を幸福ならしむるもの”と云ふ事である。勿論かゝる立場の經濟學說は大分昔に流行した所で重に Adam Smith の流を汲む Orthodox school……正統派の唱ふる所であるが、今尙ほ斯る單語が存在するのである。

◎輸入税……輸入は import である。その反對の輸出は export port は“門；入口”等の意味を有する名詞であるから、それに in がついて import となれば輸入となり ex がついて export となれば輸出となる譯である。

税は種々の字が用ひられる。租税は tax である。

“所得税の總収入額は地租収入を凌駕せんとする”
The total revenue of income tax is exceeding that of land tax.

また輸入税、織物税などの所謂物税は duty を用ひる。

例 “輸入税が此國の重なる國庫収入の源泉である”
Import duty is the main resource of the national revenue of this country.

◎課せられる……“課する”之れは impose ; levy 等が用ひられる。次に來る preposition は必ず on である。

例 “醬油砂糖等の日用品に課税するのは、古い專制時代の財政思想の遺物だと非難の聲が高い”

It is denounced very severely as a relic of the financial thought in old despotic days to impose a duty on such daily necessaries as soy and sugar etc.

課するは to impose であるが“課せられる”は何と書くべきであるか。

to be imposed でもよい。けれども此様な場合には、“させる；される；して貰ふ”の語法を譯す時に用ひ

る所の to have + object + past participle の形を用ひるのが普通である。

例 “私は時計を修繕させた”

I had my watch repaired.

“私は時計を盗まれた”

I had my watch stolen.

それで本文も、この I had my watch stolen の形に従ひ to have a new import duty imposed on silk and silk goods by the British Government とする方が正しい。to be imposed a new import duty on silk and silk goods by……とするのは、

“私は時計を盗まれた”をば

I have been stolen a watch.

と書くのと同様で、Japanese English ではあるが本當の English Sentence ではない。

◎我國絹輸出業者…… Japanese Silk exporters であり。Japanese を our と代へても無論よろしい。

◎にとつて……to ; against 等を用ひる。また for も或場合には“にとつて”の意味になるのがその時には

against と反対の意味となる。

例 “その場合に彼の飼犬は彼の命にとつては尊い恩人であつた”。

His own dog was a precious benefactor for his life in that case.

例 “その場合に彼の飼犬は彼の命にとつては憎むべき悪魔であつた”

His own dog was a condemnable devil against his life in that case.

例 “どちらの味方か云へ”

Tell me whether for or against it you are!

◎致命的打撃……a fatal blow ; 又は a death blow を用ひればよい。

◎ “あるとて” …… こうした言ひ方は一見すれば見通して終ふ様に容易しいのであるが、いざ譯すとなるとかなり六ヶ敷い。“…… とて” は普通 as を用ひて譯する。

例 “私は彼を稀に見る天才としてその日稼ぎの労働者の中に見出した”

I have found him as a record genius among the

day-labourers.

然し此場合の as は略される事が多い。即ち I have found him a record genius…… と書く。

本文も to find it as a fatal blow …… と書いても to find ; to think) it a fatal blow と as を略してもよい。少しでも文章を簡略にするのが英作文によく慣れて来た證據たとするならば後者の方が寧ろ better であらう。

◎この案…… the plan でよい。

◎撤廢させる……撤廢は to abolish であるから “撤廢させる” は to have the plan abolished か、to get the plan abolished でよい。abolish の代りに to do away with と云ふ idiom が用ひられる事もある。

“近來一番目覺しい社會運動は、差別撤廢である”。

The most striking social movement of late is it to do away with the discriminations.

◎運動方を…… to try to でよい。

◎倫敦の本邦大使館 …… the Japanese Embassy in London.

◎倫敦商業會議所 …… the London Chamber of Com

merce である。

◎宛てて……電報の場合は to ときまつてゐる。“電報もて依頼した”は sent a telegraph……asking の形に譯せばよい。

—(譯文)—

Thinking it a fatal blow to Japanese silk exporters to have a new import duty imposed on raw silk and silk goods by the British Government, the Yokohama Silk Dealers, Association has sent telegraphs to the Japanese Embassy in London and to the London Chamber of Commerce asking them to try to get the plan abolished.

(2) 普選の第一聲は明治三十五年に花井卓藏博士、故河野廣中氏、中村彌六氏、降旗元太郎氏によつて擧げられた。その年に普通選舉法案がこの人達によつて議會に提出されたのである。この法案は總ての租税による制限を撤廢し、被選舉人及び選舉人の年齢を各々二十五歳と二十歳とに決めようと云ふのであつた。

(註)本題は前ののに比すれば遙にやさしい。讀者諸氏はこの位の文なら、かなり満足される程度に書きこなせなければならぬ。そして出て來る單語も時事和文英譯の爲には是非必要な言葉であるから記憶して置いて貰ひ度いと思ふ。

◎普選……これは誰でも知つてゐる様に universal suffrage; manhood suffrage 又は popular suffrage である。然し中で manhood suffrage は男子の成年に達した者の一般選舉であるから歐米の或國々の様に女子にも之を認めてゐる國では manhood suffrage は當らない。日本では未だ本當の manhood suffrage にもなつてゐない。

“儉惡に傾きつゝある社會不安より國家を救ふのはたゞ普選の實施あるのみ”

It is only the way for deliverance of the country from the social unrest which is more and more tending to serious one to put the universal suffrage in effect.

◎第一聲……the first voice for でよい。また意譯して the first movement としても差支へない。

◎擧げられた……was raised 又は was thrown でもよい。the first movement とすれば was started とした方が better である。

◎法案……Bill である。Bill は非常に意味の多い言葉で、法律案の外に手形とか“證書”とか種々の意味に用ひられるから一通りでも辭書について知つて置く要があらうと思ふ。

普通選舉法案は a bill for manhood suffrage である。

◎議會に提出された……“提出”は introduce ; submit to bring before 等の譯し方がある。序に提出の種々の場合を一通り書いて見よう。

(1)、願書などを提出する場合……life 又は submit を用ひる。“志願者は入學願書を提出すると同時に受験料十圓を納付すべし”。

All applicants are required to pay ¥10 examination fee upon filing application for admission to this university.

(2) 辭表などを提出する場合。……tender を用ひる。“彼は自己の意見が上官達によつて黜けらるゝを

見るや否や直ちに辭表を提出した”。

He tendered his resignation as soon as he had perceived his opinion rejected by the superior officers.

3) 法案等を提出する場合。……introduce 又は submit を用ひる。“公娼廢止法案は不眞面目な議員達の笑聲裡に提出された”

The bill for anti-licensed prostitution was introduced in laughter of some inearnest members.

◎租税による制限……tax qualification である。

◎被選舉人……a person eligible for election, 又は an eligible person とも譯すが、those to be elected でもよい。従つて選舉人の方は those to vote とすればよい。

◎各々……respectively を用ひる。

◎……歳に決める……此場合には at を用ひる。即ち to fix at 20 and 25 と云ふ風を書く。

—(譯文)—

The first voice for manhood suffrage was raised by Dr Takuzo Hanai ; the late Mr, Hironaka Kono ; Mr. Yaroku Nakamura ; and Mr Mototaro Furihata. in

the 35 th year of Meiji (1902), in which year they introduced into the Diet the bill for universal suffrage. The bill intended to abolish all tax qualification and to fix the ages of those to be elected and to vote at 25 and 20 respectively.

— 英文和譯 —

(1) To be sure, it is unjust to make the people pay too high taxes, but, at the same time, it is equally unjust for the people to expect civic improvements without making the necessary outlay for such undertakings. The opposition of the people to paying taxes, however, is to a great extent due to the fact that they have not yet been properly educated regarding their civic duties. They regard the government, either of the nation or of local communities, as a thing apart from their daily life, because the governing classes for centuries past have stood aloof from the governed, as if the latter were slaves without civic rights of their own.

(註)本文は少し長いけれど單語にも別に六ヶ敷いものもなく、文章も丁度頃合なので選ぶ事にした。本文に出て来る位の單語は是非知つて居て欲しい。

◎To be sure 題語の infinitive の特別な用法の一である。元來 infinitive の用法は初學者の最も困難とする所であるが、よく使ひこなして譯しつけて來ると如何にも氣持のよいものである。下に infinitive の用法の三四を記して見よう。

(1) infinitive が adverbial phrase となる場合。この時には概して sentence の一番前に出て來る。

To tell the truth, I have a dislike to him. “本當言へば 何だか彼の男がいやなのです”

本文の to be sure もこの用法の一である。

(2) infinitive が noun となる場合。この時には多くの場合 it なる先行代名詞をとる。“すなはち it...that の that 以下の clause の代りに infinitive を用ひるのである。例へば——

It is one of the most pleasant and sacred sight to look at that a young mother is nursing her little baby, tapping or kissing at its rose-coloured cheeks. “若

い母親が赤兒のバラ色の頬を軽く叩いたりキスしたりして、あやしてゐるのを見るのは最も愉快な神聖な観物の一である”この文を infinitive を用ひて書き代へるならば：—

It is one of the most pleasant and sacred sight to look at a young mother who is nursing her little baby, tapping or kissing at its rose-coloured cheeks. となる。この場合 to look at 以下は名詞句となり it なる先行代名詞によつて表されるのである。

(3) infinitive が subjunctive mood に用ひられる場合。この場合も多く文の先頭に出る。

To do him justice, I can say that he is only an uneducated va'gure.

“公平に言ふならば、彼はたゞ無教育な俗人に過ぎぬと言ひ得る”

この外 to say nothing of……言はずもがな“……などと云ふ種別な用法もあるが、要するに英文の読みこなし方に慣れて來れば自然と呑み込み得ると思ふ”。

◎ it is unjust to mak……これが今云つた infinitive の第二の用法の例である。to make the people pay は

“人民をして拂はしむる”と譯す。people に the がつけば“庶民、人民”等の意味となる。

◎ taxes……tax は租税、税金の意味。duty と云ふのは物品に關する税である。

◎ at the same time……“それと同時に”と譯す。

◎ It is equally unjust for the people……この場合の for は“にとつて”の意味。すなはち“これも同様に人民達にとつては不正當である”と譯せばよい。

◎ civic improvement……civic は“公民の”又は“文化的の”と云ふ adjective である。之と能く似てゐるのが civil である。殆ど同じ意味に用ひられるが civilの方は重に刑法に對する民法、軍事、宗教等に對する普通の制度(civil institution)などと云ふ場合に用ひられるのである。

◎ without……この所では“……なくして”と譯せばよい。without には全く異つた種々の用法があるから此際注意して研究して置かれん事を希望する。

◎ outlay……“支出”“費用”等の意味である。

◎ opposition……to oppose……反對する……の名詞である。“對立；反抗”などの意味を有する。idioma-

tic な用法は in opposition to と云ふ形をとる。

例 Speaking generally, the prophets were men whose lofty opinions were in opposition to public beliefs.

“概して云へば豫言者とはその高遠な意見が一般の信仰に逆ふた人々であつた”

◎ to a great extent …… これも最初に云つた様に infinitive 副詞的に用ひられた場合である。それで is は due to と續く。to a great extent …… “概ね; 大部分は” 等と譯せばよい。

◎ is due to the fact that …… 之は殆んど定まつた形であるから、殆ど暗誦的に憶へておく様にされ度い之と同じ意味の idiom は is calculated on ; 又は is accounted for などである。

◎ properly …… proper は “相當な; 本當な” などと譯される形容詞であつて properly はその副詞であるから “適當に; 相當に ” などと譯せばよい。

He who has a property has a proper character.

“恒産ある者は恒心あり”

◎ regarding …… “に關して” と譯す。

◎ civic duties …… 此場合の civic は寧ろ “公民とし

ての責務” と譯した方が適當であらう。

◎ regard …… “見做す” 又は “注意する” などと譯される動詞である。idiomatic な用法も多いが此處には省略する。讀者諸君が自ら進んで研究されん事を望む。

◎ either …… or …… “どちらをも” と云ふ意味の連關接續詞である。之の打ち消しは neither …… nor である。either …… or の用法は “疑問文; 肯定文” によつて意味が異なる。

a; 疑問文の場合。この時は either …… or は whether と同じ意味になる。

Tell me clearly ! Do you want either money or love ?

“金が欲しいのか戀を望むのか、はつきり云へ。”

b, 肯定文の場合。この場合は本文の様に “何れでも” の意味になる。

May I tell you plainly, I want either money or love.

“明らかに言はせていたゞけるなら、私は金も戀もどちらも欲しいのです”

◎ local communities ……地方團體と譯してよい。community は society と同じく“社會”のとである。local は national に對しての言葉“地方の”と云ふ adjective である。

◎ as a thing apart from their daily life……as は此處では“として”の as である。apart は“離れて”と云ふ副詞である。apart from で“と離れて居る所の”すなはち which is separate from の意味の形容詞の働をする。idiomatic な用法であるからよく注意して置かれ度い。大抵の人が apart from が名詞につゞくので apart を adjective と思ひ誤りがちであるからである。

◎ for centuries past……此處の for は“間”の意味。centuries past は普通から云へば adjective なる past が前に行つて past centuries となるのであるが、殆ど普通に本文の如く、“時代”の間を云ふ場合には past 又は immemorial 等を後に置く。

例。This celebrated story has been continued traditionally from time immemorial down to the present-day—the story of Wras'ima's mysterious voyage.

“この有名な物語は古い古い昔より今日に至るまで傳

統的に續けられてゐる。すなはち浦島の神秘的な航海の物語”。

◎ aloof from……之も apart from と同じ意味の副詞である。stood を形容してゐる。

◎ the governed……被治者。the latter は“後者”でこの the governed を指すのは言ふまでもない。

◎ civic rights……“公民權”と譯したら適當であらう
—(譯文)—

人民に餘りに高い租税を拂はしむるのは確に不正當であるが、然しまた同時に文化的改良進歩をばそうした計畫に必要な支出をするとなしに期待するのは人民にとつて等しく不合理である。然し乍ら、人民の租税支拂に對する反對は大部分は、彼等が未だ公民の義務に關して適當に教育されてゐないと云ふ事に歸する。過去の長い時代に亘つて支配階級より離れてゐると宛ら後者は自己の公民權なき奴隸でもあるかの如くであつたので、人民達は中央政府をも亦地方官廳をも彼等の日常生活とはかけ離れたものとして見做すのである。

(2) Truth prevails after all. As Lincoln said, "We may fool part of people all the time, or all the people part of time, but we can never fool all the people all the time."

(註) 短文であるが要領を得た文章なので選んだ。殊に Lincoln の名言を紹介する事も英語修得上無益な事ではないと思ふたので。

◎after all……“結局は”と云ふ副詞句である。之と同じ意味の副詞句で共に記憶して置いてよいのは In the long run ; in the end 等の副詞句。finally, ultimately 等は副詞で“結局は”と云ふ意味の言葉である。

◎ we may fool……may は 此處では can の弱い意味である。元來 may は “してもよい” と云ふ許すの意味があるが屢々軽い意味 can ; be able to と同じ様に用ひられる。fool は此處では noun ではなく verb として用ひられてゐる。

◎ all the time……之は名詞が副詞の働をしてゐるのであるが、よく初學者が英作文の時など、“いつも”と云ふのを for all the time ; in all times 等と書くのを見る。然し時の副詞は名詞がそのまま用ひられる事が多い。これ等もその一例である。

—(譯文)—

眞理は結局勝を得る。リンコルンが云つた様に、我々は一部の人民を何時も瞞す事は出来るし、また全人民をば一時瞞し得ることはある。然し決して總ての人民をいつも瞞して置く事は出来ない。

第十五回練習問題解説

—和文英譯—

(1) 近來非常に親密の度を加へて來た日支兩國間の關係は、この度大使を交換する事によつて新らしい時期を劃するであらう。

(註) いま迄比較的長い和文の英譯を研究してゐたが、同時にまた短い文章を多く譯して見る必要もあるので本號から割合短文のものを三四題宛研究して見る事にする。無論隔月ぐらひに今迄通り長い文章をも研究し度いと思ふ。讀者諸君は、これ位の短文を達者に譯しこなした上で、長文の英譯にかゝられる方が順序立つてゐると思ふからである。

例によつて單語と idiom を見てみよう。

◎近來……これは屢々今までに出て來たから、よく記憶されてゐる事と思ふが復習として少し例文を書く

普通 lately ; of late ; 又は recently 等が用ひられる。

例 “近來青年の喫煙者の數が著しく増加したのは彼等の克己心の衰退と模倣心理の昂進とを示すに外ならぬと論ずる人がある。”

Some people argue that the striking increase in number of young smokers of late to nothing but the indication of decline in their self-denying spirits and the rise of psychology of imitation.

然し Japanese で “近來” と云ふ語をいつでも recently. 又は lately で譯すのだと考へてはならない。場合によつては別の idiomatic な譯し方をせねばならぬこともある。例へば次の如き場合である。

例題 “近來にない暑さだ”

これを譯して：

We have no such a hot weather as to-day's recently.

と書いても無論意味は通するが、それは餘りに直譯的である。本當の英語の語風としては次の如く譯すのが normal だ。

It is the hottest day we have had for some time.

同じ様に “近頃は全く讀書した事がない” を譯すには

I don't read book entirely of late と書くよりも：
I don't read book for some time. と書く。

◎親密の度を加へる……“加へる”は to increase でよい。親密は adjective ならば intimate で noun となれば intimacy である。それで “親密の度”は degree of intimacy となるが、to increase a degree of intimacy としなくとも、たゞ to increase intimacy で充分である。なるべく不用の語は省いて譯文を簡潔明瞭にせねばならぬ。

◎“關係”……connection 又は relation ; relationship 等を用ひて譯す。これの動詞の形、すなはち “關係する”は to relate ; to connect で preposition は to である。然し通常は passive mood の形で用ひられる事に注意され度い。

例 “もと當行出納係甲野乙海こと今般事情ありて解雇致し候間當行とは最早關係無之候”

As we have discharged Otsumi Kono, a cashier of our bank, from service owing to a certain circumstance,

he is no longer connected with our business.

これも recently の場合と同様 Japanese の“関係する”が、いつでも relation や connection のみで譯されると思ふと間違に陥る事が多い。これに 関連した idiom を少し調べて見よう。

例(1) to+noun what の形。

“彼女の彼に對する關係は尙ほ女王の奴隸に於ける關係の如し。”

これを譯して the relation between she and he is the same as that between a queen and a slave. とするのは全然 Japanese English であつて本當の英文とは云へない。正しく譯すれば

She is to him what a queen is to a slave. とせねばならぬ。

例(2) to do with を用ひる場合。

“あんな男とは断じて關係しない”

I have nothing to do with such a fellow as he.

“現世的な成功、不成功は眞の人生の意義には大して關係がない。”

Temporary success or failure has not much to do

with the real meaning of life.

例(3) to have an interest in(on) の形。之は主として資産、事業等に關する用語である。

“彼の精力は絶倫であつて、二十以上の會社に關係してゐる。”

He is so untiringly energetic as to have interest in above twenty companies.

◎大使……an ambassador 又は an envoy を用ひる。こう云ふ noun はよく時事和文英譯の問題に出て來るから正確に記憶して居られるがよいであらう。“大使に任命された”などと云ふ時の Preposition は、いつも to である。

例 “田中氏は駐露日本大使に任命された”

Mr. Tanaka has been appointed Japanese Ambassador to Russia.

大使館は an embassy である。

◎ “新らしい時期を劃する”…… to mark a new epoch が普通に用ひられる。これは“或物=subject”が“或る他の物=object の上に新らしい時期を劃する”と云ふ風の言ひ方の時に用ひられる。例へば

“この未曾有の出来事は此國文化史上に一新時期を劃したものである。”は

“This unexampled emergency has marked a new epoch in the history of civilization of his country.”と譯すのである。然し此場合に the history of civilization of this country を subject にして書くならば次の如くなる。

The history of civilization of this country has entered upon a new epoch by this unexampled emergency.

それで本文でも relationship between China and Japan を subject とする場合と、the exchange of Ambassadors を subject にする時と二様の書き方がある。前者では to enter upon a new epoch を用ひ、後者では to mark a new epoch を用ひねばならぬ。

—(譯文)—

The relationship between China and Japan which recently increased an intimacy very much will enter upon a new epoch by this exchange of ambassadors. 若し this exchange(この度の交換)を subject として書くならば：

This exchange of ambassadors will mark a new epoch on the relationship between China and Japan which has increased so greatly an intimacy of late. となる。

(2) 多数の支那學生が排外動亂を盛んに繼續してゐる。この目的の爲の會合が方々で催され、外國の帝國主義に對する烈しい痛罵が叫ばれてゐる。幾千種もの宣傳ビラが町中に撒かれてゐるが、その中の一には“諸君にして彼等を殺さずんば、彼等が諸君の光輝ある父祖の國を奪ふて終ふだろう”と書いてある。

(註) 文章は比較的長いけれど、構文その他はすこぶる平易な記事文である。

◎排外動亂……排外は反外は anti-foreign である。anti は“違反する”意味。anti-christ(反基督)は Bible によく出る word である。騷擾又は動亂は agitation である。

◎盛んに……vigorously を用ひるのが最も適當である。

◎繼續する……to continue 又は to carry on を用

ひて譯す。

◎“この目的の爲の”……for this purpose 又は for this end. 何れでもよい。

◎“方々で”……一寸譯すに惑ふかも知れないが、譯文に慣れて居ればわけはない。すなはち at various places を用ふればよい。

◎“催される”……之はいつも to be held の形をとる。“本校開校一週年紀念日は來週木曜午後三時に大講堂に於て開催さるべし。”

The anniversary for the opening of this school will be held in the grand lecture-hall next Thursday at 3 P. M.

◎帝國主義…… Imperialism である。序に“國防主義”は nationalism; “民主主義”は democracy; “貴族主義”は autocracy である。共に記憶されて置くが良いであらう。

◎“烈しく痛罵”……いろいろ譯されるであらうが、此處では vehement denunciation; vehement の代りに severe を用ひてもよい。

◎“幾千種”……幾千種を譯すに當り Thousands ki-

nds 等としてはならぬ。Thousand は此場合は adjective であるから無論 plural number にはならぬ。けれど、初學者は實に屢々之を間違へ易いから、よくよく注意され度い。

◎“宣傳ビラ”……Propaganda bill でよい。

◎“撒く”……to scatter を用ひる。

◎“その中の一つ”……“中の”は普通 among であるが、此様な場合には of を用ひる。

例 “學生の中でK君が最も英語に秀でてゐる”

Of all students Mr. K, is most distinguished in English language.

◎“光輝ある父祖の國”…… the country of your glorious ancestors でよい。

◎奪ふ…… to deprive ……of の形を用ひて譯すのが最もよい。deprive の後には oneself の形の object が来る。of の次には“奪はるる目的格”が来るのである。

例。彼が夜半に事務所から歸宅の途で、突如一人の暴漢が現れ、一言も發せず彼の頭部をなぐつて倒した彼が昏倒するのを見てその所持金を奪つた。

On his way home from his office in the midnight a rascal suddenly and stroke him down at his head without only one word. This scoundrel beprived himself of his money in pocket, seeing he had been an a deed faint.

—(譯文)—

Many Chinese students are vigorously carrying on anti-foreign agitation. Meeting for this purpose are held at various places, and there is vehement denunciation of foreign imperialism. Thousaud kinds of propaganda bills are scattered all over the town, in one of which being written the following words "If you do not kills hem, they surely will deprive yourself of the country of your glorious aucesters.

(英語小話)

先生 "fly と云ふのは規則動詞か又は不規則動詞か" 生徒の一人はこの間に答へることが出来なかつたが、忽ち彼は珍無類の名答案を提出した。

生徒 "はい、若しかその鳥が郭公でしたら、その飛ぶのは規則動詞で、雀でしたなら、その飛ぶのは不規

則動詞であります。”

— 英文和譯 —

(1) The world war thought, more terribly than ever before, that war is an utter waste of men and property, that victor as well as vanquished is wrecked and that nothing can be gained by war that cannot be gained without loss by friendly negotiations, or through an International court.

(註) 單語も構文も略豫備試験問題としては恰好の所であらう。この程度のもが無難に譯せる様になれば先づ自信を持つてよいと思ふ。例によつて單語と idiom を引き出す事にする。

◎more terribly than ever before……全體で adverbial phrase をなしてゐる。ever は、かなり厄介がられる adverb であるから、此際少しくはしく書いて見よう。

a; ever は “常に 絶へず” の意味の副詞となる。

She grumbles ever about her husband being good

for nothing.

“彼女は自分の夫が役に立たんのを、いつもブツブツ言つてゐる”

b; ever が for; after 等と合して、idiom を作る。

ever が for と結ばれると“永遠に”の意味。

例 May the glorious reign last for ever!

“輝く御代の千代八千代ならんとを!”

ever が after(since) と結ばれると“其後常に”となる。

例 He has been made light of ever since he committed the adultery.

“彼が不義を犯して以来は常に軽んせられてゐる”

ever が before と合すると“初めよりこの方”の意味になる。本文もその一例である。

例 It can be said the usage of old people that they can talk their young generations always much or less exagelately of new emergency such as earthquake:

“Such a terrible one has never been experienced even before.”

“地震の様な新らしい出来事に就ていつも多少誇張的に“こんな凄いのは今までに嘗てなかつた”と若い人々に話すのは老人の常だと云つてよい。

ever は強句法に用ひられる。

例 Thank you ever so much.

“本當に有り難う御座ゐます”

例 Do your best as much as everyou can

“出来る限り、うんと努力せよ”

例 Such a fortunate chance scarcely ever occurs to this poor man.

“かゝる幸運な機會は滅多な事では彼を見舞はない”

例 Were you ever there?

“君が其處に行つた事があるのかい”

◎taught の object は that 以下の clause である。

◎utter……entire; perfect; indebinited. unlimitled.

などと同じ意味の adjective である。これと同じ字で prouounce; express; declare 等と同じ意味、すなはち

“言ふ; 發表する”などと譯される verb がある。こ

とも序に記憶されるがよい。

◎waste……名詞は“浪費; 消耗”; “荒地; 不用地”;

“廢物；屑”など大體三通りの意味になる。従つて adjective も “無駄な”；“荒廢せる” “役に立たぬ；屑の” などとなり、verb も “浪費する” “荒らす”；“廢物にする” などとなる。共に waste で字形に變化はない。その文章の前後の關係からして何れに用ひられてゐるかを判する外ない。

例 It is not true to say that the medieval age was the waste period of human history.

Many excellent poets, painter, architect, and even philosophers and thinkers produced many brilliant monuments of human civilization in this period. They can never be said to have wasted their energy and time in mere scholastic speculation and catholic superstition.

“中世紀は人類の歴史の中で單調無趣味な時代だと云ふのは本當でない。多くの秀でた詩人；畫家，建築師そして哲學者、思想家さへも多くの光輝ある人間文化の記念塔をこの時代に産出した。彼等は決して其の精力と時間をば單なるスコラ哲學やカトリック教の迷信の中に浪費したと言はれることは出来ぬ。”

◎property……“所有權；財産”と云ふ意味の外に

“特質；特性”の意味のあるとを忘れてはならない。

◎victor……“勝利者；征服者。”

◎as well as……as well は必ずしも“同様に”と云ふ意味に許りは譯されぬ。“も亦；しかのみならず”の意味にもなる。

例 He is a student, but he is a business-man as well.

“彼は學生ですが、それ許りではなく事務家です” as well as は might, と合して特別の用法を作る。

例 You might as well kill me as deprive me of my personal liberty.

“君 僕の個人の自由を奪ふのは僕を殺すようなものである”

例 As well be hanged for a sheep as a lamb.

“どうせ絞殺されるなら小羊を盗むより大羊を盗め”

(この文は命令文であることに注意)

as well は may と共に“許す”の意味になる。

例 You may as well stay there as you like.

“君は好きなほど其處に滞在して宜しからう”

◎vanquished……vanquish (打ち勝つ；征服する)の

past participle で此處では“敗者；被征服者”の意味である。

◎wreck……“破損する；難破する”など。

◎without loss……“損害なしに”——副詞節°

◎friendly negotiation……“親しい交渉”

◎international court は“國際裁判所”と譯してよ

い。

That nothing can be gained ……以下の構文が少しごたごたしてゐるから慌てゝ終ふと意味を取り違へるこんな時には nothing を everything に cannot を can に書き改めて見ると、大分その繁雜さを減ずる事がある。本文の如きも

Everything that can be gained by war can be gained without loss by friendly negotiation とするとよく解る。即ち“戦争によつて得らるる所のすべてのものは、損害なしに親しい交渉によつて得らるる”の意味である。本文では夫れがたゞ逆に言ひ表されてゐるに過ぎない。

——(譯文)——

世界戦争は、未だかつてなく殘酷に、戦争は人間と

財産との全き浪費であると、敗北者同様勝利者も亦損はるゝと及び親密な交渉によつて、或は國際裁判所を通じて損害なしに得られない所の何物もが、戦争によつて得られないとを教へた。(戦争によつて得らるゝ所のものは、すべて損害なしに親しい交渉や或は國際裁判所によつて得られるのである。)

(2) The exact reason why Dr. Ikki, the new Minister of the Imperial Household, who is so well known for his strict morality and sofer temperament, likes so much the old stories is not known to us, but it may not be far from the mark to say that in listening to, or reading those old stories one can imagine oneself living in an age detached from his own, so full of the anxieties and intricacies characteristic of the modern age.

(註) 省略文の例として之を掲げる。時事英文にはいつも斯かる省略文が多いから、こうしたものにも慣れて置く必要は充分にあると思ふ。讀者諸氏は先づ何

處に如何に省略されてゐるかを檢べた上で解説を見ていたゞき度い。

◎th: exact reason の次には that が來て why と つゞくべきであるが、why, where, there, what, how, 等の場合には that を略くのが文法上正しい。之は和文英譯の時などによく間違へ易い所である。

◎Minister of the Imperial Household は“宮内大臣”である。

◎so well……“非常によく(知られてゐる)”の意味。

◎strict morality……“厳格な品行”と譯す。morality は普通は“倫理等”の意味となる。

◎sober……drunk の反對。“酔のさめた”“眞面目な”などの意味。temperament は“氣質”であるから sober temperament は“眞面目な氣質”

◎so much……much は adjective としては many に等しい。adverb としては“餘程; すいぶん; 多く”等の意味。much は adjective か adverb かと問はれて戸惑ふたりしてはいけない。so はたゞ much の意味を強めたに過ぎない。

◎it may not be far from the mark……mark も隨

分種々の意味に譯される言葉であるが、此處では“標的’の意味である。It may の may は“かも知れない”の意味の may。may の後に volitional verb が來れば“でよい”と云ふ許可の意味になるのである。It は to say の先行代名詞なると明であらう。

◎listening to those old stories と reading those old stories とを比較すれば listen は自動的で read は他動詞なる事が解る。之などは和文英譯に際しては餘程注意されねばならん點である。

◎one can imagine oneself living……“自らが…生活してゐるかに想像し得る”の意味。すなはち one can imagine as if one were living に等しい。

◎in an age detached from……in an age の次に that is が略されて居る。his own の後には age が略されてゐる。his own の次の, は which is の略の記號である。

◎anxiety……“心配; 不安”などの意味。發音が少し普通と異つてゐるから注意されたい。“アネクシエチイ”などと發音してゐる人も珍らしくない様である

◎intricacy……intricate…ほつれ合ふ、錯雜した…

の名詞である。intricacies の後に characteristic と云ふ adjective が直ぐ來てゐるので一寸惑ふ人もあるかも知れぬ。これは矢張り形容詞の前の which is の省略された形である。

—(譯文)—

厳格な品行と眞面目な氣質とで知れ亘つてゐる新宮相一木博士が、何故古い物語をそんなにひどく好むかと云ふ正確な理由は我々には解らないが、昔物語に聴き入り又は讀む時に人々は近世の特徴である不安、錯雜に充ちた自分自身の時代からかけ離れた時代に生活してゐるかの如く想像し得るものだと言ふのは蓋し當らずと雖も遠からざるものであらう。

第十六回練習問題解説

— 和 文 英 譯 —

(1) 一千九百二十一年以來、白耳義では平均命數僅に八ヶ月で五度内閣の更迭があつた。日本は政府の代る早さでは多くの國々を抜いてゐるが近年の内閣がベルギの夫れの如く短命でないのは日本にとつて慶賀すべき事である。

(註) 日本文としては至極平凡な文であるが、適當に構文を考へないと存外六ヶ敷くも思はれる。例へば“五度内閣の更迭があつた”の如き、之を There were five changes of Cabinets と書くのは如何にも幼稚で且つ five changes of Cabinets では“内閣に就ての五度の變化”又は“内閣の五度の變化”としか譯せず充分に意味が明瞭ではない。

構文に就ての考へ方。

譯文の初頭に何を出すべきかを先づ考へる。それには矢張り原文の通り Since 1621 がよい。次には“平均命數僅に八ヶ月で”であるが、之には三つの書き方がある。その一は、之一節をば which を以つて Cabinets と説明文とするのである。また of を以つて cabinets につづけて adjective とする事も出来る。第三には with で以つて adverbial phrase とするのである

次には前にも云つた、‘五度内閣が更迭した’であるが、之は there were five changes of Cabinets では駄目であるから、何とか代へねばならぬ。それには原文の意味を代へずに文章を直して見ればよい。すなはち“五つの異なる内閣が組織された”と書けばよい。

Tense で注意すべきは since 1621 であるから“組織された”は have been formed と present perfect を用ひねばならぬ。

第三段目の構文は云ふまでもなく it……that の形を用ひる。“日本は政府の代る早さ……抜いてゐるが”までは though で以つてくゝつて文の初頭に出すか、又は文の中に入れてよい。it……that の形であるから寧ろ文の中に入れての方がよいかも知れぬ。

譯語及び idiom の研究

◎白耳義……ベルギーと云ひそめてゐるので、いざ spell となると却々旨く出て來ない。國の名はよく時文英語には出て來るのであるから正確な spelling の出來るよう平生から注意され度い。この機會に spell と qrouoanciation の著しく異なる各國名を少し書いて置かう。

瑞西……Swizland。和蘭……Hollad。希臘……Greece。アルゼンチン……Argentina。ロシヤ……Russia。白耳義も Bergium である。

◎平均命數……an average life である。命數だから、number of life だと思ふて an average number of life とする人もあるかも知れんが之は間違である。number of life は“生命の數”であつて日本語の命數の意味には當らない。

例“この小さい家の中に、そんなに多くの人數が住んでゐるとは驚いた”

I am astonished that so great number of lives should live in this small house.

命數は the length of life である。

“古代では人間の命数が現在よりも長く、舊約聖書の創世紀中の人物、例へばアブラハム、ヤコブ、イサクなど皆數百歳の齡を重ねたと書いてある”

The length of human life in ancient time might have been longer than at the present time. The characters in the Genesis of the Holy Bible, for instance such as Abraham; James; Isack are said to have lived few hundred years.

序に命數の日本語には次の様な場合がある。

“斯くなつては流石に飛ぶ鳥を落す彼の命數もつきた”

この場合の“命數”を the length of life などと譯せば滑稽至極である。斯る時には“運命”の意味であるから、fate; lot 等を用ひねばならぬ。すなはち譯すと

Thus being the case, his fate have come to its end, imcomparable as his power is となる。

前にも云ふ通りこの“平均命數僅に八ヶ月で”を種々に書く事が出来る。第一に之を which で cabinets に結ぶとすれば

……cabinets whose average life is eight months only

となる。第二に Cabinets の adjective phrase とすれば

Cabinets of an average life of eight months only である。第三に abverbial phrase に書けば、

with an average life of eight months only となつて“更迭した”と云ふ動詞を形容する事になる。何れが最も英文として適當であるかと云へば第三の with an average life である。

◎五度内閣が更迭した……これは前にも言つた様に“五つの異なる内閣が組織された”と書くのが最も適當であらうと思はれる。すなはち下の如く譯す

five different Cabinets have been formed である。英文は諸君の知つてゐらるる通り、よく passive mood を用ひるからして其點に注意して譯さねばならぬ。日本文では“内閣が更迭した”と active mood で書かれるのが、English sentence では have been formed と passive mood に書かれるのである。

◎政府の變る早さでは……平凡であつていざ譯すとすると一寸首をひねられる人も少くないと思ふ。in quickness of change of cabinets と直譯するのは無論

意味には間違がないがタドタドしい。それで in quick change of Cabinets 又は Government でよい。

◎他國を抜く……to excee を用ひる。この名詞は excelency; 形容詞は excellent である。to excel には I は一で、名詞形容詞には II となつてゐるから spelling の時によく間違ふ。注意され度い。

◎近來の内閣……recent Cabinets 又は Cabinets of late 等と書くのは原文に忠實な様であるが實は誤つてゐる。原文の意味は“日本の内閣は近來ではそんなに短命でない”と云ふのであるから、recent Cabinet と云ふ風な漠然たる表現法を用ひずに Japanese Cabinets in recent years と書く方が明瞭である。

◎短命な……short-lived である。これの名詞は short-life である。

“神經質な子供は百人の中四十人は短命である”

Of every 100 nervous children, 40 are short-lived.

◎慶賀すべき事……a matter of congratulation である。“日本にとつて”とあるから self-congratulation for Japan と書けば一層意味がはつきりしてよい。

—(譯文)—

Since 1921, five different Cabinets have been formed in Belgium, with an average life of eight months only. It is a matter of congratulation for Japan that, though she excels many other nations in quick change of government, her Cabinet in recent years is not so short-lived as that of Belgium.

(2) “アメリカ合衆國の日本に對する關係に於て合衆國國民の心に堅く刻みつけられねばならぬ紀念日が二日ある。その一は米國が世界交通に對し日本の扉を開いた日、他の一は米國が標榜して居る友情と傳統的な正義とに全く背馳して我國の移民に對し扉を閉じた日である。前者はアメリカ合衆國にとつて最も光榮ある日の一であるが、後者は他の點では汚點のない彼の國の歴史の名譽を損ふ最も遺憾なる日である。”

(註) 長いけれど割合にやさしい文章である。豫備試験準備の練習題として好適の程度であらう。先づ讀者諸君が試作した上で註の方を讀まれたい。

◎アメリカ合衆國の日本に對する關係に於て……こ

れは in the relation of the United States of America to Japan でよい。to Japan を and Japan とすれば“合衆國と日本との關係に於て”となるから少し意味が違ふ。茲では米國を主として云つてゐるのだから to Japan とし、彼の國を主格として書かねばいけない。

◎刻みつけられる……to be engraved である。

◎……に對し扉を開く……to open the door for である。

一寸考へると to を用ひたいが“の爲に開く”は for であるか注意。それで本文の此所は

……America opened the door of Japan for world intercourse……となる。

◎我國の移民に對し戸を閉す……前文は“世界交通に對して戸を開く”であり、此處では“我國の移民に對し戸を閉づる”である。同じく“對し”であるが前者は to open the door……for であつたが、閉づる方は to close the the door against でなければならぬ。for は“の爲に”の意味、against はその反對の意味を含む。

例。“この事件に對しては各代員の間の意見が賛否

まちまちである”

There is divergeuce of view of every delegate in regard to for or against this matter.

◎前者……the former; 後者は the latter である。

◎最も光榮ある日の一つ……“最も光榮ある”は the most glarious であるから the most glorious day であらうと plural number に書くのは理に合はぬ様に考へられる。確に理論上から云へば the most glorious day は only one の筈であるが literary expression としては the most glorious days といつても差支へないのである。

◎標榜してゐる友情……友情は friendship であるからそれを which で受けて her friendship which she profess などと書くのは幼稚である。her professed friendship でよいのだが、こうした事も氣の焦る試験場では却々大膽に書けにくいものだ。だから平素から長く自信をつけて置かねばならぬのである。

◎傳統的正義……tradional justice であらう。

◎全く背馳して……背馳すると云ふ動詞には次の如きものがある。

“彼の申立は全く豫審調書に背馳してゐる”

His stattement is uterly opposed the protocol of preliminary hearing.

“彼の行爲は其の標榜せる信仰の精神に背馳するものだ”

His conduct runs counter to the spirit of his confessed faith.

“結果は全く豫想に背馳して彼は勿ちにその全財産を抛つて終ふ外あり得なかつた”

Result was entirely contrary to expectation, thus there could not be any other way than to give up his all fortune at once.

“いざ鎌倉と云ふ場合には平生の元氣に全く背馳して顔色を變へる人が多い”

There are may man who change colour in utter contradiction to their everyday courage in case of emergency

◎他の點では汚點のない歴史……これを直譯的に書けばかなり面倒なものが出来上る。Her history which is blameless in other point than this などと書いても

意味は通ずるが、あまり直譯的で面白くない。それで此様な場合には otherwise と云ふ至極重寶な文學のあるを思ひ出さねばならぬ。之を用ふれば her otherwise blameless histry と簡単に書き下すことが出来る。

—(譯文)—

In the relation of the United States of America to Japan there are two memorable days which must firmly be engraved in the minds of her people. One is the day on which America opened the doors of Japan for world intercourse, and the other is that on which she closed her own doors against our immigrants in utter contradiction to her professed friendship and traditional justice. The former is one of the most glorious days for America, while the latter is the most disgraceful day which mars the honour of her otherwise blameless history.

—英文和譯—

(1) Thoughts differ with the age, and the word of thought is subject to coustant change,

mostly influenced by the continually changing circumstances and environment under which human society has its being. This is particularly the case with present day Japanese society which is in a transitional stage. The transformation of thought in modern Japan has been no less radical than that of the social and material life of the community since its emergence from the feudal regime of the pre-Meiji era.

(註) 新聞紙の論説の中から選び出したので、用ひられてゐる單語も idiom も皆、時文の研究には必ず知つて居らねばならん様なもの許りである。ここに出て来る位の單語は英語の常識として記憶して置かねばならぬ。

◎differ……differ は普通に“違ふ”と譯される verb であるが、preposition によつて、その意味も自ら異なるので一概に“違ふ”とのみ譯すのは正しくない。下にその場合場合を書いて見よう。

differ + from……この時には“違ふ”の意味。

Thought of men differ from each other as their faces do.

“顔の異なる如く人の思想は互に異つてゐる”

differ + with……with の次に personal noun が来る

と、

“意見が合はぬ”“喧嘩する”などの意味になる”

I cannot but confess that I must differ with you on this very point.

“私は丁度この點だけは、君と意見を異にせざるを得ないとを申し上げる外ない”

本文の differ with は無論この場合の differ with とは別である。この場合の with は實は differ の方の preposition ではなく with the age となるのである。若しも with を differ にくつつけたならば

Thoughts differ with the age は“思想は時代と相容れぬ”などと譯される。けれど此處では with は age の前置詞として“年齢(又は時代)に連れて”と譯すべきだ。かかる例はしばしば見當る所であつて前置詞の取り様で、多く見當違ひの譯をする様になるから、常に云ふ通り、落着いて幾度か繰り返して讀んだ上で、

大體の意味をつかむ様にしなければならない。

◎is subject to……これも屢々用ひられる idiom である。元來 subject には次の三通りの用法がある。

noun としての subject……この場合には subject は臣民、主題、主観、主務などの意味になる。臣民と主格とが同じ言葉であると云ふのは political thought の上から見ると面白い。Minister が“大臣”と同時に“下僕”の意味を有するのと對照して見ると如何にも democracy の influence が言葉の上にも及んで居る事を見るであらう。一見全く反對の意味にしか考へられない“臣下”と“主格”の兩義が斯ふした常識からして容易に首肯出来る事から考へても、英文殊に時事英文などを譯するに當つては、常識に導かれる所多きを知らねばならぬのである。

adjective としての subject……この場合に subject は“所屬の；支配を受くる；”などの意味になる。

Every one in this country without any exception of foreigners, must be subject to this law.

“此國內の者は、西洋人たるを問はず誰でも此法律に従はねばならぬ”

to be subject to は“支配を受くる”と云ふ意味から轉じて“……を受くる。蒙る”の意味に用ひられる本文の如きは其一例である。

Generally speaking, a country man, who is commonly ignorant of sharpness and wuning among men of street, is subject to disadvantage when they make so-called bree contract each other. This is the very point on which the Goverment insist to legisla'e this law.

概して云へば町の間達の間、の狡さ悪さを普通知らない田舎人は、彼等が互に所謂自由契約をする時には損を蒙る。この事が、政府の此法律を制定すべく主張する點に外ならぬ。

◎constant……“絶へざる”と云ふ形容詞だが、數學又は物理學では“定數”と云ふ名詞になる。

◎mostly influenced は is subject to の is につゞく。

◎enviroument……“周圍”“環境”などと譯される。

It is one of the eternal questions of human history wether personality creates environment or contrarily enviroument creates personality.

“個性が環境を作るのか、はた反對に環境が個性を作るのかは人間の歴史の中で永遠の問題である一だ。”

◎has its being……being は“存在物。實在”又は“人；神”などの意味の夕詞である。has its being は“その存在を保つ”と譯せばよい。

◎the case with……これも屢々用ひられ必要な idiom である。

English has become already the second mother-tongue in our country, it is the case with China.

“其語は今や我國では第二の母國語となつた。支那に於ても亦然り”

この例に示す如く to be the case with は“に於ても亦然り”と云ふ意味になるのである。

◎present day Japanese society…… present day は Japanese society の adjective に用ひられてゐる。本當云へば Japanese society at the present time と書くべきだが、時文には屢々こうした筆法が用ひられてゐるので、新聞紙など讀む際には其時々充分注意されたが良いと思ふ。

◎transitional……transition (變遷、過渡)の形容詞であ

る。之とよく似てゐて屢々誤り用ひられるのは transitory なる形容詞だ。之は“果敢ない；無常な”などの意味であるから“過渡の”と云ふ場合に之を用ひると大間違である。

◎Transformation……trans は“移す；過ぎる”などの意味であるから、この字のついてゐる單語は總てそうした意義を持つてゐる。例へば translation は“言葉に移す”とであり、transport は“荷物を港から港へ移す”意味を有する。それで transformation も“形を移す”即ち“變形；變化”などの意味である。この様に或言葉の意味を研究するに、その語原の立場から見て行くのを Etimological study (語源學的研究)と云ふのである。知らない單語が試験問題に出た場合などにさうした研究をやつてゐる人は非常に便利な事である。それで辭書を書く時にもよく氣をつけて、例へば telegraph ; telephone ; telescope ; telegram と云ふ風に“tele”と云ふ prefix のついた字が、すうと並んで出て居る様な場合には、いろいろ研究して置くと爲になる事が多い。

◎no less……than……至極平凡な idiom で今更ら云

ふまでもない所と思ふ。

◎community …… 普通“社會”と譯されてゐる。society は“世間;社會”などの意味であるが community は“團體”の意味である。

◎Emergence …… “發現”の意味である。之と同じく emerge なる verb より出た他の名詞 emergency は“突發的の出來事”の意味で、之とは全然異なるから兩者を混同してはならない。

◎feudal …… “封建の”と云ふ形容詞; feud が“領土; 封地”などの名詞で其處から feudaliem (封建制度) feudality (封建の原則) などと云ふ言葉が生じたのである。

—(譯文)—

思想は時代と共に異なる。そして思想家は不斷の變化を受け、とり分け人間の社會をしてその存在を保たしむる。絶へず變化する境遇なり周圍の環境によつて影響される。この事は過渡期にある今日の日本の社會に就ては殊に然りである。近代日本の思想の變遷は明治時代以前の封建制度から日本の社會が現れ出でてより以來、社會的また物質的生活の變遷と同様に急激であ

る。

(2) A certain periodical published by the Army Authorities is believed to be intended for dissemination of conservative and reactionary thoughts among soldiers under their command. This, however, is the most foolish thing ever ventured at any rate. To try to construct a water-tight apartment in the modern world of thoughts and ideas is as futile as to keep out the air from a room by means of steel doors.

(註)

◎periodical …… 一寸見れば形容詞の形の言葉であるが、無論形容詞にも成るけれど、また名詞としても屢々用ひられる。之と同じ様な字は editorial であろう之は adjective としては“編輯者の”と云ふ意味で、editorial ability …… 編者の技倆 …… などとなり、名詞としては“社説”の意味になる。時事和文英譯の場合など、よくこうした言葉を間違へて用ひてゐる事があるから充分注意せねばならない。

◎published by……之は今更ら言ふ迄もなく which is を略されてゐる。英文として讀む時にはこれなど頓る平々凡々な事であるが、しかも和文英譯の場合となると如何しても大膽に which is を略いて終ふと云ふ事が却々困難である。かくて出來上つた英文が、どうもたどたどしくなつて來る。こんな事は文法的には百も承知してゐる事なのだが、實際に當つて却々融通が利かぬ。いはゆる机上の兵法となつて終ふ。だから英文を能く讀んでおいて口調の上から a certain periodical which is published by よりも、a certain periodical published by と書き下し易くなる位に修養する必要がある。之は却々六ヶ敷い望であるが、満全を期せんが爲には已むを得ない所である。日本の英學界の老大家として名あるD氏が青年時代に Emerson の Essays を暗誦して居たと云ふ事である。これ位の努力あつてこそ、あゝした達者な英文がすらすらと書き下せるのである。

◎the Army Authorities……“陸軍當局”である。海軍當局ならば the Naval Authorities である。

◎dissemination……disseminate “は流布する。傳

する”などの動詞である。

◎conservative……progressive の反對語で、“保守的”の意味の adjective である。保守主義は conservatism である。

“There is no man but man is much or less conservative”……“多少は保守的ならぬ人はない”又は“誰でも多少は保守的だ”と譯す。

◎reactionary……“反動的の”と云ふ adjective。

◎is the most foolish thing ever ventured……これもよくある形である。略さずに書けば is the most foolish thing of the things which have been ever ventured となるのだが、こんな事を書く人は誰もいない英語の省略法に注意して讀む事が、やがて和文英譯の際の勝利を得る所以である。

◎at any rate……“兎も角も”の意味の副詞句である。之と同じ意味に譯される idiom は at all events ; in any case ; be that as it may などがある。常に記憶されたがよい。

◎to try to……の to try は前にも云つた様に infinitive が noun となつて用ひられてゐる場合である。

infinitive が文章の冒頭に來るのは noun となつた場合か、又は subjunctive の場合である。

1. To do him justice, he is a pedant

“本當云へば彼は學者ぶる男である”

2. To maintain justice in the present day society is no less difficult than to preserve a candle-light in the worst of the wind.

“今日の社會で正義を支持するのは、一番風のひどく吹く所で蠟燭の光を保つと同様に困難である”

◎water-tight apartment…… water-light は“水の漏らぬ”と云ふ形容詞である。water-tight apartment は“密室”とでも譯せばよい。

◎is as futile as……“と同様に無益な”と譯す。

◎to keep out は“閉め出す”である。

—(譯文)—

陸軍當局によつて發行される或る刊行物は彼等の支配下の軍人の中に保守的、反動的思想を傳播せんが爲であると信じられてゐる。然し乍ら此事は兎に角かつて試みられた最も愚かしい事である。近世の思想界に密室を作ろうとするのは、鐵の扉で以つて室から空氣を閉め出すと同じ無駄事である。

第十七回練習問題解説

— 和文英譯 —

(1) 政治家としては餘りに理想家過ぎると云ふのが、最近物故したブライアン氏に對する唯一の非難の根據であつた。晩年には例の所謂ファンダメンタリストの先驅者として、或はまた排進化論運動の急先鋒として、頑冥不靈であるとか、時代錯誤であるとかと随分烈しく非難さたけれど、その信ずる所へ邁進して右顧左眄しない高邁な態度は誰しも歎賞せざるを得ない所であつた。殊に彼が眞のキリスト教的立場から先年將に發布されようとした排日法案の撤去に努力し遂に之れに成功した事實は、眞に偉大なる人物さへあれば如何に輝かしい現實の果が理想の花より得られるかと云ふ人類への尊い約束である。まことに彼は決して世論のまにまに自

己の主張や信念を變へるが如き人ではなかつた

(註) 少し長い様であるが、落付いて書いて行けばさまで六ヶ敷い文章ではない。勿論修辭學的に云つて堂々たる文をものしようとするならば、かなり困難であらうが、文意が明快に表現され且つ文法的に正確であると云ふ丈けならば、寧ろやさしい文章の一であらう。

idiom にからんだ六ヶ敷い短文を譯して見るのと同時に、斯る文をば自由な、くつろいだ氣持で書き下して見るのも非常に意味深いとである。よく云ふ通り英文を書くのは何よりも先づ腰がなければならん。何の平氣だ、と云ふ落付きさへあれば、元來が英文和譯に比して比べものにならんほど容易な和文英譯なのであるから、出来ない譯のものではない。そうした腰をかためるには、斯る自由な文に書きなれる事が一番大切である。その方法としては英語の日記をつけるのが一番良いのである。之は云ふべくして行はれ難い事の一であるが一番努力して試みられるのは非常に良い事である。

◎ “理想家過ぎると云ふのが” ……之は that fact that he had been too idealistic と書けば最も穩當であるが餘りにコテコテし過ぎる思がある。それで To have been too idealistic と infinitive の past tense を用ひた方がよい。注意すべき日本語で“過ぎると云ふのが” と present tense と書いてあるから to be too idealistic と直譯してはならぬとである。

◎ 最近に物故した……詳しく書けば he who died quite recently であるが、たゞ the late ……で充分意味は通ずるのである。

◎ “非難の根據” ……the sole ground for blaming……又は the sole point found fault of など種々の言ひ方がある。

例 “某政黨の眼中、黨利あつて國益民福なき能度は主要な新聞紙の猛烈な非難を招いた”

The attitude of a certain party, in which the happiness in general is entirely ignored but only its interest accounted, evoked a storm of adverse comment in the important press.

‘彼は人を非難する材料を見つけるに敏であるが、少

しも自己自身の缺點に氣がつかない。”

Though he is very sharf in finding the faults of others, he is in the least conscious of his own defects.

それで此處まで譯して見るならば

To have been too much idealistic to be a stateman was the sole ground for blaming the late Mr. Bryan.

とするか、或はまた

It was the sole point of finding fault of the late Mr. Bryan that he had been too idealistic to be a politician.

と書けばよい。なるべく捉はれずに自由に書けばよいのである。

◎“晩年には”……in the closing years of his life 又は the last days of his life などがよいであらう。

例 “晩年を所謂若隱居して過さうと云ふ日本流の考が、日本人をして早く考ひ込ませしめる最も重大な原因だと説く人もある”。

Some people have the opinion that the most important cause for so early dotage of Japanese is the fact that they incline to hope to live easy in retirement

in the last days of their lives.

◎先驅者……forerunner 又は pioner でよい。

例文 “いつの世に於ても科學にせよ思想にせよ、その先驅者は異端者として取扱はれたのである。”

In every age, the pioners of things, say sciece or thinking, has been treated as the heretics.

◎排進化論運動……the anti-evolution movement.

◎急先鋒……vanguard であるが、また次の様にも云つてよい。

例文 “彼は一生涯を通じて自然主義の急先鋒として働いた。”

He has been at the forefront of naturalism through his life—he has been a vanguard of nationalism.

◎頑冥不靈……obstinaty ; bigotry, 等が普通である。adjective となれば obstinate ; bigoted となる。

例文 “頑冥不靈の徒と見做されてゐた獨逸のアナバプチスト派は、實は信仰の匂ひ高い人道主義者達であつた。”

The Ana-baptists who have been known as the bigoted were really the humanists with sublime air of

religious faith.

◎時代錯誤……anachronism が普通に用ひられる。

条文 今の時代にキリスト教を外國の宗教だからと云ふ丈けの理由で毛嫌ひする程、時代錯誤な事はない。

There can never be anything so anachronistic as to be prejudiced against Christianity with the only reason that it was originated in the foreign country.

◎“あるとか”……是れには文章によつて種々の譯し方がある。一概に云へないが此處では as を用ひるか、または owing to the fact that; on the ground of the fact that 等を用ひると良い。

◎烈しく非難される……非難は to reproach; to blame ; などあるが、よく criticize と云ふ verb が用ひられる。すなはち 例文 “彼の愧づべき二重結婚とそれに対する見苦しい辨解とは世人に激しく非難された。”

His shameful “double” marriage and his mean excuse for it were severely criticized by the public in general.

◎邁進する……to dash for ward などが最も普通の所であらう。“信ずる所に邁進する”は to make a dash towards his own faith. でよい。

“兵士の不動の姿勢は、すべからく其心中に勇往邁進の氣の充實せるを表現せるものならざるべからず”

The motionless attitude of soldiers must be necessarily manifestation of fullness of dashing spirit in their bosoms.

◎右顧左眄する……to cast side-glance とも to see round right and left とも to throw glance around とも書き得る。然し此處では意譯して “他人の意見や態度を妥協的に氣にかける” と云ふ風に書くもよからうと思ふ。to worry compromisingly about other's attitude and opinions. と書けばよい。

“逡巡遲疑左顧右眄して自らの態度を決し得ざる人は屢々怖るべき誘惑に陥り易い。”

He who hesitates and cannot determine his own attitude, worrying compromisingly over other's opinions would often be thrown into a serious temptation.

◎高邁な態度……lofty attitude; lofty の代りに noble high-minded などを用ひてもよい。

◎歎賞せざるを得ない……cannot help admiring. cannot but speak admiringly of 等と書けばよい。

それで此處までを書いて見れば

Though in his closing years he was severely criticized as being bigoted and anachronistic owing to the fact that he was the forerunner of the famous so-called fundamentalists and the prominent leader of the anti-evolution movement, every one could not but admire his lofty attitude, dashing towards his beliefs and not casting compromising glances all around.

この他種々に書け得る。讀者諸君は自ら自由に作つて見られるが良い。

◎“將に發布されようとした”…… to be about to be issued の形に譯せばよい。

◎排日法案……the anti-Japanese law.

◎撤去……removal か withdrawal を用ひて譯す。

◎“眞に偉大なる人さへあれば”……之を直譯して if there is a really great man と書いただけでは文章の連絡が充分でない。如何しても“若しか眞に偉大なる人物が之を支持するならば”と云ふ風に書かないと意味が明にならぬ。茲などが譯文を試みる際に非常に注意されねばならない點であらうと思ふ。

◎“決して……人でなかつた”……之を He was never such a man as to change his arguments or beliefs ……と書いても無論良いけれど、“last”を要ひて譯す方が面白い。すなはち次の様に書く。

He was the last man who would change his own opinions or beliefs……。

◎“世論のまにまに”……これも種々に譯し方が在るが in accordance with 等が最も適當であらう。

(譯文) It has been the sole ground for blaming the late Mr. Bryn that he was too idealistic to be a statesman. Though in his closing years, he was severely criticized as being bigoted and anachronistic owing to the fact that he had been a forerunner of the famous so-called fundamentalists and a prominent leader of the anti-evolution movement, yet every one could not but admire his lofty attitude, dashing towards his own beliefs and not casting a compromising glance all around. Especially the fact that from the real christian stand-point he endeavoured and finally accomplished his purpose to withdraw the anti-

ある。各々意味も異なるのでその用法にも相違を生ずる。下にその用例を擧げて見よう。

(a) for the purpose of + present participle (...ing)
これは“何々を目當にして”と云ふ意味である。

He has gone to abroad for the purpose of studying the economic sciences.

“彼は經濟科學を勉強せんが爲に外國に行つた”

(b) for the sake of (of の次には noun 又は gerund が来る。) gerund は present participle と同じ form であるが、之は詞の名詞化されたものであるから present participle と混同してはならぬ。

All soldiers swore that they would willingly sacrifice their lives for the sake of their mother country.

“すべての兵士は喜んで母國の爲に生命を捧げませうと誓つた”

(c) with the intention of の形。之は“何々のつもりで”の意味。

He has married her with the intention of becoming the successor of this honourable lineage.

“彼は此の名譽ある家系の後繼者とならんが爲に彼女

と結婚した”。

(d) with a view to + present participle. の形。to の次に……ing の形の來るのは餘り數多くない場合であるから特によく記憶して置かれた方がよいだろう。これは殆ど for the purpose of ……ing と同じ意味である。

There is a striking tenbancy in the college life of many young students which tells us the fact that they are studying various sciences not so much with a view to getting a high salary after graduation as to searching truth for the truth sake.

“若き學徒の學校生活に於て著しい傾向は、彼等が眞理の爲に眞理を探るよりも寧ろ卒業後高い月給を得んが爲に種々の科學を勉強してゐる事を物語るのである。”

(e) in order to ……to の後には verb の root form が來る。これは“せんが爲め”と云ふ一番軽い意味の場合に用ひられる。

The International court should be instituted with a great commanding power in order to maintain the

Japanese law which had been about to be issued several years ago, should be the admirable promise to humanity if a really great man would maintain it, how brilliant fruit could be gairied from the tree of an ideal. Indeed, he was the last man who would change his contention and beliefs in accordance with the public opinions.

(今回は問題が少し長かつたから英譯の方は一題に止めて置く)

— 英文和譯 —

(1) The present system of State examination has been instituted in order to get rid of the much lamented abuses of favowritism that had been rampant in the early of the Meiji era, when nathing but local or clan affiliations and personal connections were taken into consideration by the higher-ups of the Government. It would seem, therefore, that the present system of State examinations cannot be dispensed with,

however loud the cry for open door and equal oppor tunity for able talents may be. To abolish the State examination would spell greater evils, and will swrely foment more grievances than at present.

(註) 少し長いのと餘り出て來ない單語が二つ位あるのでかなり六ヶ敷いかと思ふ。然し時事問題の英文としては恰好の所であるし、その單語も必要な種類のものであるから、此際記憶の中に入れられるが良いと思ふたので、この文を選んだ。いつもの通り idiom や目立つ單語を抜き出して見ようと思ふ。

◎ State examination……“國家試験”で、The examination for high officers in the Diplomatic service;(外交官試験)、the examination for high judicial officers (司法官試験)及び The examination for high Governemtal officers(高等文官試験)を總稱しての名詞である。

◎ an order to……“せんが爲に”と云ふ idiom である。“せんが爲に”すなはち目的を示す adverbial phrase には in order to の外に下の幾通りかの idiom が

ある。各々意味も異なるのでその用法にも相違を生ずる。下にその用例を挙げて見よう。

(a) for the purpose of + present participle (...ing) これは“何々を目當にして”と云ふ意味である。

He has gone to abroad for the purpose of studying the economic sciences.

“彼は經濟科學を勉強せんが爲に外國に行つた”

(b) for the sake of (of の次には noun 又は gerund が来る。) gerund は present participle と同じ form であるが、之は詞の名詞化されたものであるから present participle と混同してはならぬ。

All soldiers swore that they would willingly sacrifice their lives for the sake of their mother country.

“すべての兵士は喜んで母國の爲に生命を捧げませうと誓つた”

(c) with the intention of の形。之は“何々のつもりで”の意味。

He has married her with the intention of becoming the successor of this honourable lineage.

“彼は此の名譽ある家系の後繼者とならんが爲に彼女

と結婚した”。

(d) with a view to + present participle. の形。to の次に……ing の形の來るのは餘り數多くない場合であるから特によく記憶して置かれた方がよいだろう。これは殆ど for the purpose of ……ing と同じ意味である。

There is a striking tenbancy in the college life of many young students which tells us the fact that they are studying various sciences not so much with a view to getting a high salary after graduation as to searching truth for the truth sake.

“若き學徒の學校生活に於て著しい傾向は、彼等が眞理の爲に眞理を探るよりも寧ろ卒業後高い月給を得んが爲に種々の科學を勉強してゐる事を物語るのである。”

(e) in order to ……to の後には verb の root form が來る。これは“せんが爲め”と云ふ一番軽い意味の場合に用ひられる。

The International court should be instituted with a great commanding power in order to maintain the

world peace.

“世界平和を維持せんが爲に、大なる命令權を有する國際裁判所が設けられねばならぬ”。

(f) lest should for 又は far の形。之は negative meaning を有する“の爲に”である。即ち“何々せざらんが爲に”の場合。

You must study dilligently lest you should fail in the examination.

“試験に落第しないが爲には一生懸命勉強せねばならん”。

You must study dilligently for fear of failing in the examination.

“上例に同じ”

◎ to get rid of……これもよく出て来る idiom である。“除く、拂ふ”などの意味。そして“邪魔物を除く”と云つた風の意味が自ら含まれてゐるのである。

They made the most of this chance to get rid of this faithful retainer from the mansion.

“この館からこの忠臣を追ひ拂はんが爲に彼等はこの機會を利用した”。

◎ lamented……to lament は“歎く”の意味。lamented は past participle が adjective に用ひられてゐるのである。

They have erected the monument in memory of the late lamented.

“彼等は故人の記念碑を建てた”。

◎ abuse……“濫用”又は“虐待”の意味。本文では勿論前の方の意味に用ひられてゐる。

◎ favouritism……favourite (気に入りの) の名詞である。“依古最負”又は“不公平”の意味である。

◎ rampant……一寸見當らない單語である。“はびこる”意味の adjective。同じ意味の言葉は become powerful ; domineer 等がある。

例 Vain glory has been rampant among the young souls in the country.

“田舎の若い人々の間に虚榮心かはびこつて來た。”

◎ rera……紀元、年代などの意味。

◎ local or clan……local は“地方的”clan は“一族一藩”の意味。

◎ affiliation……“同盟又は加入”の意味である。そ

れで local or clan affiliation は、“地方的又は藩閥的
同盟”の意味である。

◎ personal connection ……“個人的干涉”と譯す。

◎ to be taken into consideration ……“酌量する”意
味の idiom である。

例 If we would make sound judgement on some one, it
should be necessary to take one's special circumstance
in which one had been brought up into consideration
“若しも吾人が或人に就て健全な判断を爲さうと思ふ
ならば彼が育てられた特別な境地をば酌量する必要が
ある”

◎ higher-ups ……high officers のことである。

◎ to be dispensed with ……to dispense は“分配する”
意味。to be dispensed with は“なしで済す；除く”な
どの意味の idiom である。

◎ however …… may be …… No matter how …… may
be と同じ意味の形である。“如何に …… するとも”と
譯す。

◎ open door ……“門戸開放”と譯す。

◎ equal opportunity ……“機會均等”と譯す。

◎ able 'alent ……“有爲なる才能”である。

◎ to spell ……spell は“綴る”と云ふのが本來の意
味であるが、“成る”と云ふ意味にも轉用される。

◎ forment ……“蒸す”意味から轉じて、“おだてる。
惹き起す”などの意味に用ひられる。

(譯文) 現在の國家試験制度は明治の初年にはびこ
つてゐた非常に歎はしい依古曷の亂用を除かんが爲に
制定されたもので、その時分にはたゞ地方閥、藩閥又
は個人的關係のみが政府高官達によつて配慮されてゐ
たのである。故に如何に有爲の材に對する門戸開放、
機會均等の叫が高くとも、現在の國家試験制度はなく
する譯には行かんと思ふ。國家試験を無くすることは
より大なる害惡を作り、現在よりも、もつと苦情の種
を惹起するのは確であらう。

(2) With all the merits and fenefits, the mode-
rn newspapers have one defect and that is their
giving too much prominence to things or eve-
nts of extraordinary nature. Human nature crav-
es for sensations and ordinary affairs of every

day occurrence would scarcely attract the attention of the reader. This explains to a great extent the publication of things extraordinary, even though they be of the most ugly and unpleasant nature. Many attempts have been made in America and England to eliminate entirely the ugly stories from the columns of daily papers, but those papers soon went out of existence merely because people did not care to read them.

(註) ◎ with…… 種々の意味があるので餘程注意してゐないと思はぬ誤譯をする事がある。此處では“と共に”の意味である。

◎ merit…… 普通は“技倆、價值、功績”などの意味。又“長所、特徴”などの譯もある。また plural number の場合は“曲直、真相”などの意味に用ひられるから各々の場合に就て充分記憶して置かねばならぬ。

例 You must not make a merit of the conduct, for

there is no merit in merely doing your duty.

“そんな事を誇つてはならぬ。君の本分をつくした事は誇るに足らぬ”。

The merit of him can be said at the same time his faults in the opposite point of view.

“彼の長所は反對の見地に於ては同時に缺點であるとも云はれ得る”。

Impartiality is the most necessary condition to judge a case on its merits.

“事件の是非曲直によつて裁判するには公平と云ふのが最も必要な條件である”。

◎ that is…… これを“即ち”と譯しつけてゐるので此場合にもそう譯し their giving 以下を have の object する人があるかも知れん。然し“即ち”と譯する場合の that is は必ず“,” で區切られてゐるから此場合などと混同してはならぬ。こんな誤は實に簡単な様であつて殆ど致命的なものであるから、よく注意すべきであろう。that は上の事をひつくるめて云つてゐるのである。

◎ their giving…… giving は gerund である。give

の present participle が noun となつたもの。

◎ extraordinary……extra は“餘分の、特別の”などの意味を有する adjective である。ordinary は“普通”であるから extraordinary は“非常の；特別の”と云ふ意味になるのである。

◎ crave……sigh for ; thirst for ; long for ; yearn after などと等しく“切望する；憧れる”などの意味。

◎ sensations……普通は“感じ；心地”などの意味であるが“人氣；評判”などの意味にもなる。

His inflammatory speech created a great sensation among the audience.

“彼の煽動的な演説は聴衆の間に大な評判となつた”。

◎ would scarcely attract……would は will の past であるが此處では特別な用法で“習慣”を現すのである。

◎ even though……“たとひ……とも”と譯される條件文である。それで後に來る verb が be と成り變化の形をとらぬ。然し此頃では條件文でも be 動詞の變化形を用ひるが、本來は root form を用ひるのが文法上正確なのである。

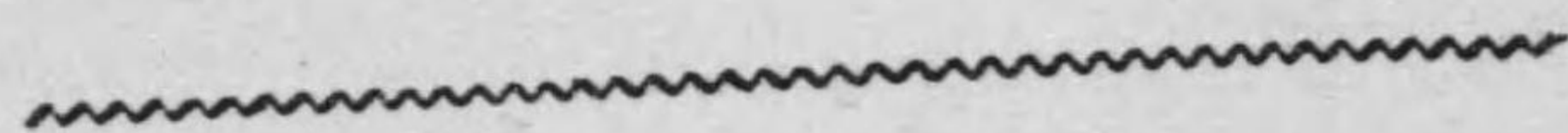
◎ to eliminate……to get rid of と同じ意味である。

除去する；追ひ出す”などの動詞。

◎ columns……“記事欄”のこと。新聞記事は article ; account ; news などで、column はこの account の載せられる欄の事。in our columns と云へば“本紙上に於て”と云ふ意味になる。

◎ to go out of existence……“存在から外に行く”の意味“なくなる；消滅する”など譯せばよい。

(譯文) 總ての效績及び恩譯と共に、近代の新聞紙は一の缺點を持つてゐる、それは常ならぬ性質の事柄又は出來事を餘りに書き立てる事である。人間の性質として目覺ましき事に憧れ、日々に起る平凡な事件は讀者の注意を殆ど惹かない。よし最も醜く不愉快な性質のものであつても物珍らしき事柄ならば書き立てるのは概ね此の事實に因るのである。米國や英國で日日の新聞紙の記事欄から全く醜い物語を取り除けようとして多くの試が爲されたが、之等の新聞紙は勿ち消滅して終つた。蓋しひとへに人々が其様な新聞紙を讀まうとしないからである。



◇ 試験及第の指針 ◇

高等各科
辨理士
朝鮮辯護士
試験問題集 | 定價六十五錢
送料四錢
各第一回試験以降の問題及各科規則と書式の全集

高等豫備
資格認定
改正専檢
試験問題集 | 定價五十錢
送料四錢
高等試験の關門各試験問題の全集並試験條令

高等
普通
試験の呼吸 | 定價壹圓
送料六錢
法律試験への勉強法とその答案組立方の詳述

豫
試
備
験
模範答案集 | 近刊豫告
論文語學の模範答案と勉強法並に試験委員講評

{ 高等豫備試験
標準英語の解釋 }

□ 定價金九拾五錢 □

大正十四年八月二十日印刷

大正十四年九月五日發行

拾八

東京市牛込區藥王寺町七十一番地

編著兼發行者 平岡榮

東京市神田區仲藏藥町十番地

印刷人 平賀久吉

東京市神田區仲藏藥町十番地

印刷所 受験界社印刷部

東京市牛込區藥王寺七十一番地

發行所 受験界社

振振口座東京五一四四六番

電話牛込三一二四番

□ 東京弘文館發賣 □

124

法學入門の筈(附録、法律學自修研究法)

法律經濟熟語新辭典

定價壹圓八拾錢
書留送料拾參錢

法律を學ばんと志す者は先本書を必携して
其の用語疑義の解説より始めればならぬ。

223
653

終